

上里町地域公共交通網形成計画（案） 【概要版】

整理の観点

(1) 町民の日常生活における**移動手段確保**

⇒高齢化に伴う移動制約者の増加に対応するための移動手段の確保

(2) 公共交通の**利便性**

⇒より便利な公共交通体系の構築

(3) 公共交通の**維持・改善**

⇒公共交通を維持していくとともに、まちづくりとも連携した柔軟な対応・改善の実施

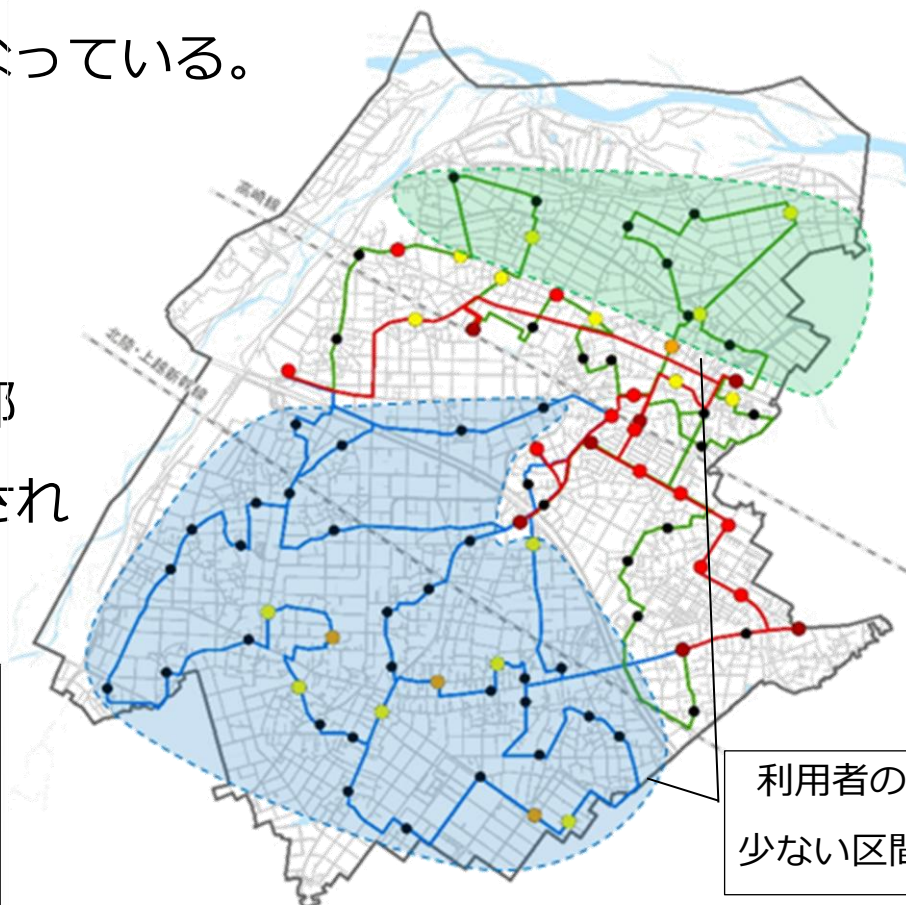
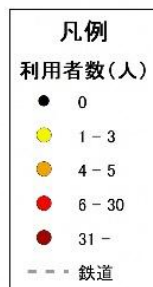
(1) 町民の日常生活における移動手段確保

地域状況

日常生活における移動の中心が自動車となっている。
(町民意向調査より)

こむぎっち号の利用状況

ルート間の利用状況の偏りが大きく、北部ルート及び南部ルートには、ほとんど利用されていない停留所が多く存在している。



こむぎっち号の利用者分布

利用者の
少ない区間

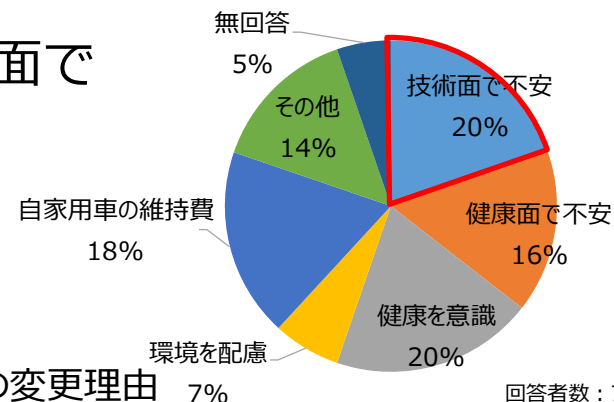
(1) 町民の日常生活における移動手段確保

町民の移動特性

町外への外出が多く、特に本庄市との繋がりが強い。(町民意向調査より)
また、町内に総合病院が無く、本庄市等の近隣市の病院まで行く必要がある。

高齢者の交通事故状況

- ・ 埼玉県内で発生した交通事故のうち、高齢者が主たる当事者となった事故割合は増加傾向にあり、上里町においても同様の傾向にあると推察される。
- ・ 公共交通への変更意向を持っている方は、運転技術面で不安を感じている方が多い。(町民意向調査より)



公共交通利用へ変更したい方の変更理由

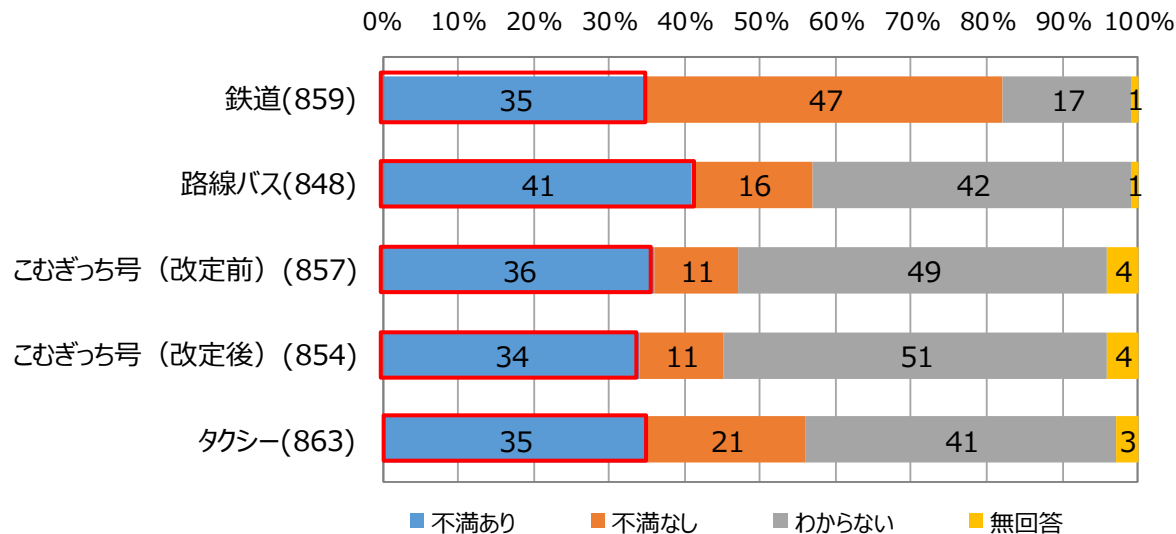
回答者数：76人

(2) 公共交通の利便性

利便性に対する意見・意向

- ・どの公共交通機関も一様に「不満」を感じている。

各公共交通機関の不満割合



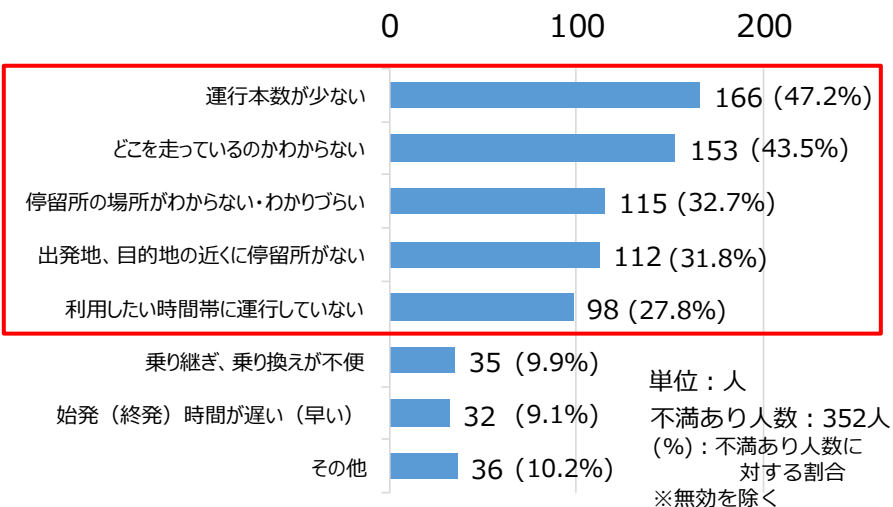
回答者数：863人 ※無効を除く

(2) 公共交通の利便性

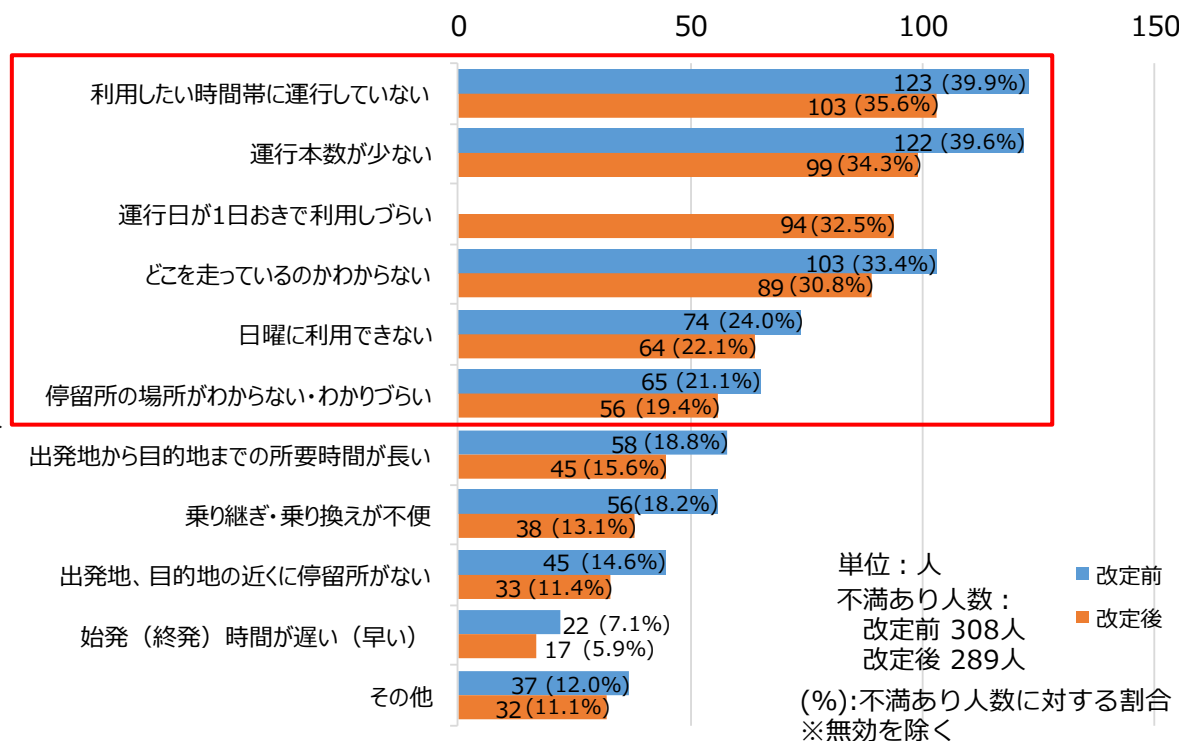
利便性に対する意見・意向

・バス交通に関する不満点は、乗車場所や運行時間帯に関するものが多い。

路線バスへの不満理由



こむぎっちゃん号への不満理由



(2) 公共交通の利便性

公共交通機関間の連携状況（乗り継ぎの利便性）

・こむぎっち号の上里町役場において、中央・南部ルート間の一部ダイヤで乗り継ぎが考慮されているものの、他交通機関等との乗り継ぎの利便性は確保されていない。

連携が行われているダイヤ

中央ルートアグリパーク上里側→南部ルートウニクス方面

乗り換え余裕時間

こむぎっち号
中央ルートウニクス行き
上里町役場到着時刻（月～土）

バス停名称	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便
上里町役場	8:53	10:13	11:18	12:33	14:33	15:53	17:03	18:18

4分 4分 4分 4分

こむぎっち号
南部ルートウニクス行き
上里町役場出発時刻（火・木・土）

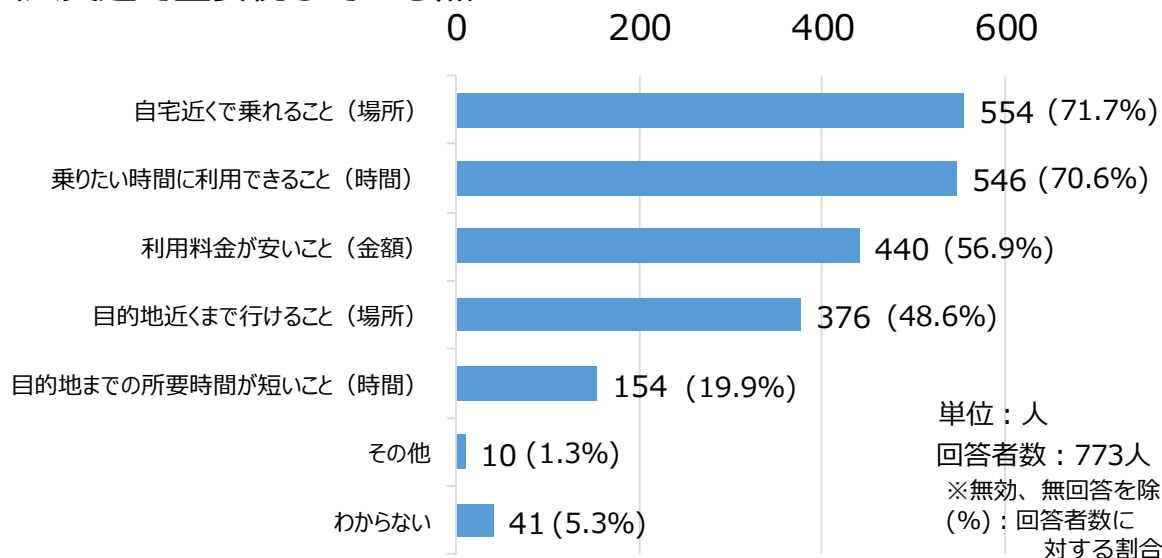
バス停名称	1便	2便	3便	4便
上里町役場	8:57	11:22	14:37	17:07

(2) 公共交通の利便性

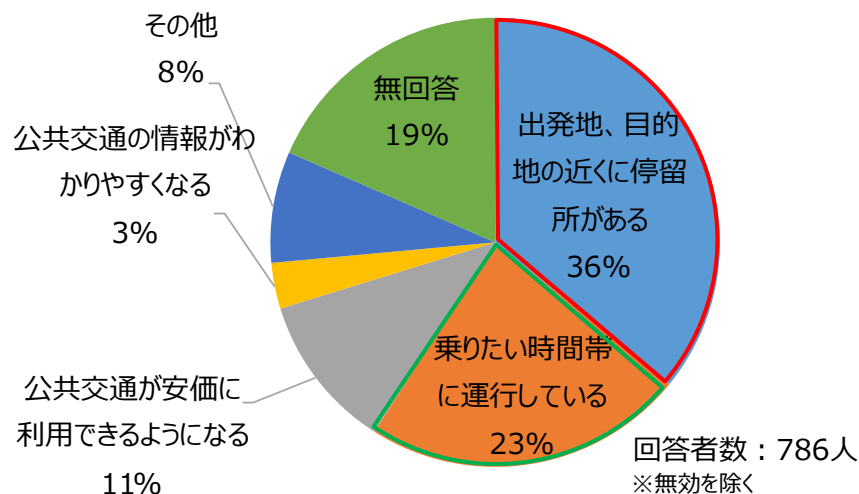
公共交通において重要視している事項

- ・乗降場所や運行時間帯など、「利便性」に関する内容が重要視されている。
- ・公共交通へ変換する条件も、乗降場所や運行時間帯など「利便性」に関する内容が重視されている。

公共交通で重要視している点



公共交通利用へ変換したくなる条件





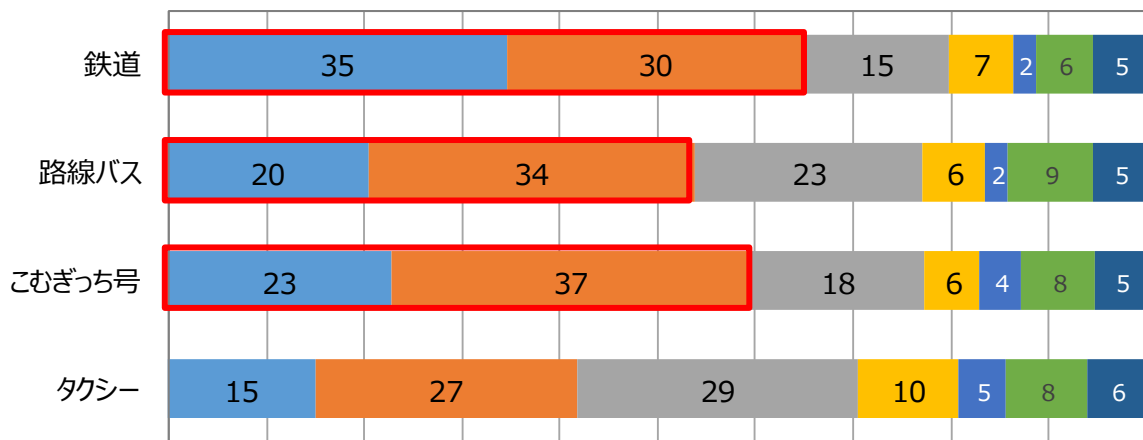
(3) 公共交通の維持・改善

公共交通に対する意識

- ・公共交通全般に対して、半数の方が、皆で支える必要性を感じている。
- ・一方で、公共交通への変換意向は少ない。

公共交通を支える意識

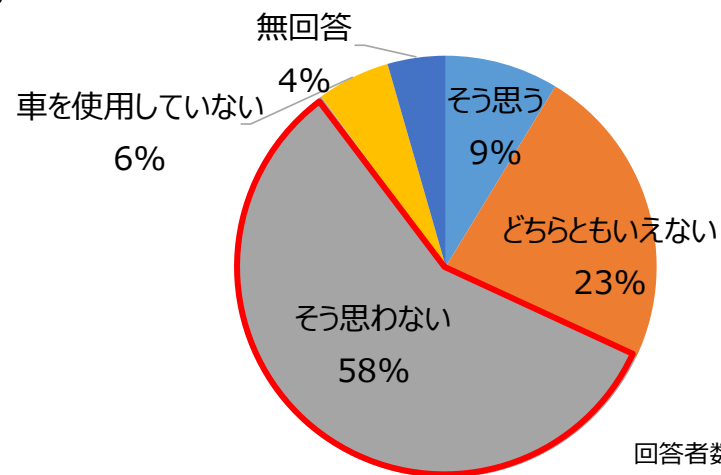
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 強くそう思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そう思わない ■ 全く思わない ■ わからない ■ 無回答

回答者数：874人

車から公共交通への変換意向



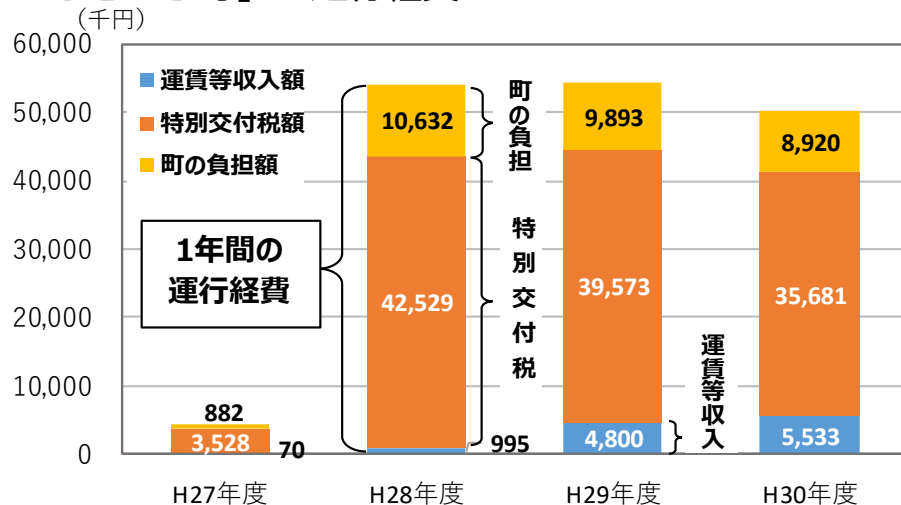
回答者数：874人

(3) 公共交通の維持・改善

こむぎっち号の運行経費

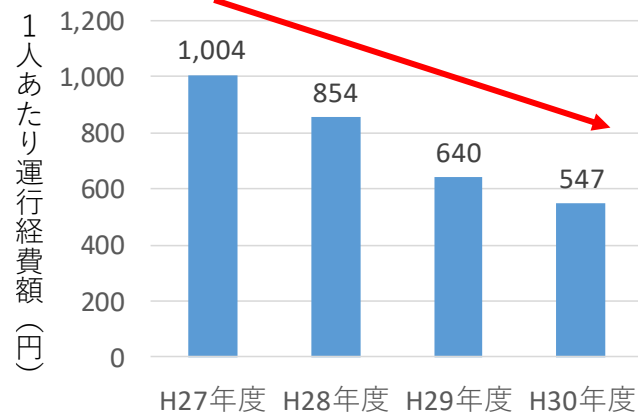
- ・利用者増加に伴い、利用者1人あたりの町の負担額は減少傾向にあるが、高齢者の無料パス配布事業により、料金収入が減少する可能性がある。

「こむぎっち号」の運行経費



※運賃等収入には補助金を含む。

利用者1人あたりの町の負担額



(1) 町民の日常生活における移動手段確保

- 町民の日常的な利用施設である、神保原駅や公共施設、商業・医療施設等（町内に限定しない）への移動手段を確保

(2) 公共交通の利便性

- 利用者ニーズに対応した公共交通の運行経路・本数等のサービス水準の設定

(3) 公共交通の維持・改善

- 厳しい財政状況における公共交通サービスに関する行政経費の削減
- 公共交通の利用促進、効率的な運行計画による公共交通の収益性向上
- 持続可能な公共交通に向けて町民や交通事業者、近隣市等との協働体制による運営のしくみづくり

基本方針 1：利用者ニーズに対応した公共交通サービスの構築

運行計画の見直しや新たな公共交通サービスの実施により、町民の誰もが利用しやすい公共交通を構築する。

①利用者ニーズのある地域への対応と日常生活の移動手段の確保

- ・既存のコミュニティバスは利用者ニーズに対応した運行とするとともに、新たな公共交通形態の導入など、町民の日常生活における移動手段を確保する。
- ・まちづくりに関する上位・関連計画との連携・整合をとり、移動しやすいまちづくりを実現させる。

②公共交通の前提として、バス停からバス停までの移動手段を担う

- ・自宅玄関からのサービスは「福祉」と捉え、福祉サービスとの棲み分けを明確にする。
- ・ただし、バリアフリー対応等、高齢者や障害者への配慮はしっかりと行う。

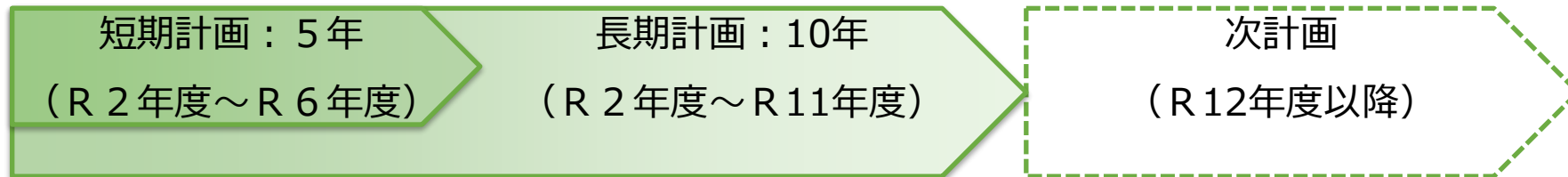
基本方針 2：町民、交通事業者、行政の協働による

持続可能なしくみづくり

公共交通を維持・改善していくために、各々が協力しあう体制づくりや町民の意識改革を促すしくみづくりを行う。

また、町が運行する公共交通（こむぎっち号）においては、公共サービスの一環として実施するものであり、採算性を追求するのではなく、維持できるサービスを目指す。

計画期間は、令和11年度までの10年とする。



計画の目標【長期的目標】



上里町が目指すまちづくりを支える基盤として、さらに、今後の超高齢社会にも対応できる移動手段の確保と、それらを持続させていくことに対し、以下の目標とする。

目標1：まちづくりにおける政策と連携し、都市機能の基盤を形成する

今後、立地適正化計画等により、まちの構造が大きく変わることが想定される。公共交通は、まちづくりを進める中で、都市機能の基盤の一つであり、公共交通網が適切に整備されないと、まちづくりが進まないといっても過言ではない。

そのため、今後のまちづくりの方向性やあり方などと連携しながら、より利便性の高い公共交通網の形成を目指す。

目標2：持続可能な公共交通を実現する

公共交通を維持していくためには、上里町だけの取り組みでは限界があるため、町民や交通事業者にも積極的な参加、利用を促し、公共交通運行の体制および財政の両面で持続可能な公共交通体系を構築することを目指す。

計画の目標【短期的目標】



当面（約5年間）の短期的な目標として、バス交通（こむぎっちゃん号）の改善を最優先として、以下の目標とする。

目標1：町内公共交通の利便性向上により、公共交通利用者数の増加を図る

町民アンケート調査結果より、「こむぎっちゃん号」に関して運行場所及び運行本数に不満を感じている方が多くみられたため、利用実態や将来の利用見込み等を考慮し、適切な運行体系を構築することにより、「こむぎっちゃん号」の利用者数の増加を図る。

また、町民の多くが日常生活全般において、本庄市への移動が多く見られることから、本庄市とも連携した公共交通の体系を構築する。

目標2：持続可能な公共交通を実現する

「こむぎっちゃん号」の利便性向上による料金収入の増加のほか、さらなる周知による公共交通への転換を図るとともに、車内広告などの別収益を得るなどの方策を検討する。

短期的目標を達成するための施策



目標 1：町内公共交通の利便性向上により、公共交通利用者数の増加を図る

施策内容	概要
1. 「こむぎっちゃん号」 （定時定路線）の検証	利用者が少ない区間の減便または廃止の検討。利用者が多い区間の増便の検討。
2. 交通結節点の整備	乗り換えしやすいルートやダイヤの調整。
3. 次期公共交通の 導入可能性の検討	こむぎっちゃん号（定時定路線）の検証により把握した課題に対して、新たな公共交通体系の導入可能性の検討。
4. 本庄市との連携	こむぎっちゃん号の延伸や本庄市デマンド交通との連携の検討。
5. 高齢者の公共交通利用支援	交通安全に関する講習を受講した高齢者を対象に、こむぎっちゃん号の高齢者無料パスの交付。
6. 利用者の意見聴取	利用者へのアンケートの継続実施。

目標 2：持続可能な公共交通を実現する

施策内容	概要
1. 運賃収入の確保	利用者数増加による運賃収入の確保。
2. 財源の確保	車内広告等による収入等、運賃以外の収入源の確保。
3. 広報・チラシ、「乗り方教室」等による啓発活動	広報誌、ポスター、チラシ、イベント等による公共交通利用の習慣づけの推進。
4. 各地区への聞き取りの実施	より具体の利用者ニーズを把握するために、各地区へ意見の聞き取りを実施。

具体的施策の詳細



目標 1 : 町内公共交通の利便性向上により、公共交通利用者数の増加を図る

施策 1 : 「こむぎっちゃん号」 (定時定路線) の検証

【施策内容】

こむぎっちゃん号については、令和4年度までは現行の運行形態を継続しつつ、その間に利用者ニーズ等を詳細に把握して、利便性の向上に向けた再編検討を行う。

具体的には、**利用者が少ない区間においては、廃止・減便を検討**するとともに、エリアを限定した運行についても検討を行う。**利用者が多い区間については、増便の検討**を行う。

【実施スケジュール】

施策名	短期 (R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
「こむぎっちゃん号」の運行本数・運行ダイヤ・運行経路及び停留所の見直し	再編計画・運行					
	→					→

利用者の多い区間の増便検討



利用者の少ない区間の減便または廃止検討



【目標】 年間利用者数:令和6年度までに22,300人

具体的施策の詳細



目標 1 : 町内公共交通の利便性向上により、公共交通利用者数の増加を図る

施策 2 : 交通結節点の整備

【施策内容】

駅や商業施設等において、異なるルート間や他交通機関との乗り換えがしやすいように、ルートやダイヤの調整を検討する。

また、乗り換えの待ち時間を快適に過ごせるよう、「バスまちスポット」として停留所の環境整備（椅子や屋根等）も行う。特に商業施設には、施設内のスペース利用の協議も実施する。

【検討する交通結節点】

神保原駅、上里町役場、ユニクス、ベルク七本木店、アグリパーク上里、イオンタウン

【実施スケジュール】

施策名	短期(R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
交通結節点の整備	検討 →	実施 →				→

【目標】 乗り継ぎ実施者数：利用者OD調査回答者の2%

具体的施策の詳細



目標 1 : 町内公共交通の利便性向上により、公共交通利用者数の増加を図る

施策 3 : 次期公共交通の導入可能性の検討

【施策内容】

こむぎっち号（定時定路線）の検証により把握した課題の対応として、**新たな公共交通体系の導入可能性を検討**する。

【検討項目】

検討項目	具体的な検討内容
定時定路線継続の検討	運行ダイヤ、経路等の見直し
定時定路線以外の公共交通形態検討	事例収集や自治体ヒアリング
上里町への導入可能性検討	運行形態、運用方法、 需要・収支予測、課題等の整理
導入に向けた対応	実証運行計画及びその実施

【実施スケジュール】

施策名	短期 (R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
次期公共交通の導入可能性の検討	検討・実証運行 ・判断			導入		

具体的施策の詳細



目標 1 : 町内公共交通の利便性向上により、公共交通利用者数の増加を図る

施策 4 : 本庄市との連携

【施策内容】

繋がりの強い本庄市への移動を支援するため、**こむぎっち号の延伸や本庄市デマンド交通との連携を検討**する。

【実施スケジュール】

施策名	短期(R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
本庄市との連携	検討 →					



具体的施策の詳細



目標 1 : 町内公共交通の利便性向上により、公共交通利用者数の増加を図る

施策 5 : 高齢者の公共交通利用支援

【施策内容】

高齢者による交通事故を未然に防止し、公共交通の利用を支援するため、交通安全に関する講習を受講した高齢者を対象に、**公共交通利用支援事業として「こむぎっちゃん号」の高齢者無料パスを交付**する。（令和元年度より実施）

【実施スケジュール】

施策名	短期 (R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
高齢者の公共交通利用支援	実施					

【目標】 高齢者無料パスの発行件数：令和6年度までに130人

具体的施策の詳細



目標 1 : 町内公共交通の利便性向上により、公共交通利用者数の増加を図る

施策 6 : 利用者の意見聴取

【施策内容】

各種施策の評価・検証を行い、PDCAサイクルを回して、よりよい公共交通の利用環境を実現するために、**現在定期的に実施している利用者アンケートを継続的に実施**し、評価・検証の基礎資料とする。

利用者OD調査は毎年実施し、交通結節点の評価に用いるため、出発地目的地のほか、乗り換え利用の有無も確認する。

利用者意見調査は、実証運行の実施時や短期計画の見直し時等に必要に応じて実施し、利用者の満足度や町内の公共交通への意見、実施した施策への意見等を確認する。

【実施スケジュール】

施策名	短期(R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
利用者の意見聴取	継続実施					

具体的施策の詳細



目標 2 : 持続可能な公共交通を実現する

施策 1 : 運賃収入の確保

【施策内容】

目標 1 における施策も含め、**利用者数の増加により、運賃収入を確保**する。

【実施スケジュール】

施策名	短期(R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
運賃収入の確保	実施					

【目標】 町の費用負担割合：現状維持

具体的施策の詳細



目標 2 : 持続可能な公共交通を実現する

施策 2 : 財源の確保

【施策内容】

こむぎっち号の車内やバス停、時刻表、路線図等における広告掲載による収入等、**運賃収入以外の収入源を確保**する。

現在（再編後も含む）、こむぎっち号が運行している商業施設等に広告掲載の協力を打診する。

【実施スケジュール】

施策名	短期(R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
財源の確保	検討 →	実施 →				

【目標】 広告掲載数：5年で2件

具体的施策の詳細



目標 2 : 持続可能な公共交通を実現する

施策 3 : 広報・チラシ、「乗り方教室」等による啓発活動

【施策内容】

広報誌「広報かみさと」やポスターでの案内、チラシの配布等により周知を行うとともに、公民館等での説明会や「乗り方教室」等を開催することで、バス利用に対する不安を払拭し、公共交通利用の習慣が身につくよう推進する。

【実施スケジュール】

施策名	短期(R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
広報・チラシ、「乗り方教室」等による啓発活動	実施					

【目標】 年 1 回実施

具体的施策の詳細



目標 2 : 持続可能な公共交通を実現する

施策 4 : 各地区への聞き取りの実施

【施策内容】

こむぎっち号の再編や次期公共交通導入検討にあたり、より具体の利用者ニーズを把握するために、各地区に出向き聞き取りを実施する。聞き取りを通じて、公共交通が町民自身のものであることの意識醸成も図る。

【実施スケジュール】

施策名	短期(R2~R6)					長期
	R2	R3	R4	R5	R6	
聞き取りの実施	実施					